

# B-MOSアップデート内容（2026/04/23公開）

2026年4月23日 公開のネットアップデートの追加機能や変更箇所等については、以下の内容となります。

## 壁量計算・構造チェッカー・ハウストラ

### ◆ 7倍超えの軸組で「上限7倍」と「実倍率」の両方の計算に対応

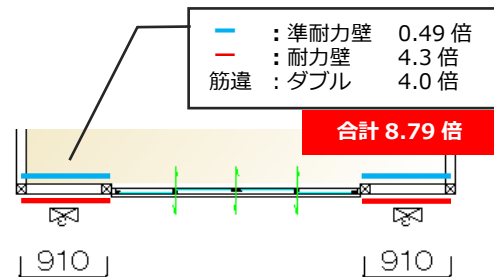
実態上の倍率が7倍を超える軸組がある場合、「四分割法」または「偏心率」の計算において、当該軸組の倍率を「上限7倍」と「実態上の倍率」の両方で検討できるようになりました。

グレー本 2025年版対応（※1）

#### 1/4 範囲充足率

「耐力用壁倍率」・「実態上の壁倍率」が追加され、ボタンをクリックするとそれぞれの算定結果に切り替わります。

右図のような軸力の場合、算定結果は↓のようになります。



戻る → **耐力用壁倍率** | 実態上の壁倍率

壁のつりあい良い配置のチェック

方向	階	位置	床面積 ①	係数 ②	必要壁量 ③ = ①×②	存在壁量 ④	壁量充足率 ⑤ = ④/③	充足率 判定 ⑥
X	2	上	10.35	19	196.65	782.60	3.97	適
		下	10.35	19	196.65	782.60		
	1	上	12.42	34	422.28	1028.30		
		下	12.42	34	422.28	1274.00		

上限7倍として算定  
⇒7.0×182.0 = 1274.0

戻る → 耐力用壁倍率 | **実態上の壁倍率**

壁のつりあい良い配置のチェック

方向	階	位置	床面積 ①	係数 ②	必要壁量 ③ = ①×②	存在壁量 ④	壁量充足率 ⑤ = ④/③	充足率 判定 ⑥
X	2	上	10.35	19	196.65	871.78	4.43	適
		下	10.35	19	196.65	871.78		
	1	上	12.42	34	422.28	1235.78		
		下	12.42	34	422.28	1599.78		

実倍率 8.79倍として算定  
⇒8.79×182.0 = 1599.78

### ! 「四分割法計算」の準耐力壁等の扱いについて

耐力壁量に対する必要壁量の割合によって、準耐力壁等を含めるかどうかが決まります。

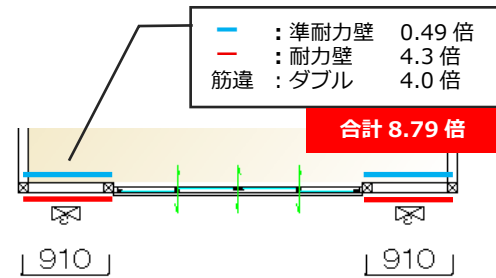
	耐力壁量 ≥ 必要壁量×1/2	耐力壁量 < 必要壁量×1/2
耐力用壁倍率	準耐力壁等を <b>含めず</b> に <b>上限7.0倍</b> で計算	準耐力壁等を <b>含めて</b> <b>上限7.0倍</b> で計算
実態上の壁倍率	準耐力壁等を <b>含めて</b> 計算	準耐力壁等を <b>含めて</b> 計算

※準耐力壁等の算定方法を「算定しない」に設定している場合は、準耐力壁等は計算には含まれません。

## 偏心率の計算

「耐力用壁倍率」・「実態上の壁倍率」が追加され、ボタンをクリックするとそれぞれの算定結果に切り替わります。

右図のような軸力の場合、算定結果は↓のようになります。



耐力用壁倍率		実態上の壁倍率		階重量 $W_i$ (kN)		108.7			
通り	$y_{ij}$ $x_{ij}$ (m)	壁倍率 (倍)	$L_{xij}$ $L_{yij}$ (m)	$H \cdot \theta_{ij}$ (m)	$Q_{xij}$ $Q_{yij}$ (kN)	$D_{xij}$ $D_{yij}$ (kN/m)	$D_{xij} \cdot y_{ij}$ $D_{yij} \cdot x_{ij}$ (kN·m/m)	$\Sigma D_{xij}$ $\Sigma D_{yij}$ (kN/m)	$\Sigma (D_{xij} \cdot y_{ij})$ $\Sigma (D_{yij} \cdot x_{ij})$ (kN·m/m)
Y-1	0.000	7.000	1.820	2.73/150	24.972	1372.088	0.000		
Y-5	3.640	0.980	1.885	2.73/150	2.822	144.068	524.400		
Y-7	5.460	0.980	2.730	2.73/150	7.064	388.132	1573.201		
Y-8	6.370	1.320	2.730	2.73/150	7.064	388.132	2472.401	4252.528	24735.101

上限 7 倍として算定

耐力用壁倍率		実態上の壁倍率		階重量 $W_i$ (kN)		108.7			
通り	$y_{ij}$ $x_{ij}$ (m)	壁倍率 (倍)	$L_{xij}$ $L_{yij}$ (m)	$H \cdot \theta_{ij}$ (m)	$Q_{xij}$ $Q_{yij}$ (kN)	$D_{xij}$ $D_{yij}$ (kN/m)	$D_{xij} \cdot y_{ij}$ $D_{yij} \cdot x_{ij}$ (kN·m/m)	$\Sigma D_{xij}$ $\Sigma D_{yij}$ (kN/m)	$\Sigma (D_{xij} \cdot y_{ij})$ $\Sigma (D_{yij} \cdot x_{ij})$ (kN·m/m)
Y-1	0.000	8.790	1.820	2.73/150	31.358	1722.857	0.000		
Y-5	3.640	0.980	1.885	2.73/150	2.822	144.068	524.400		
Y-7	5.460	0.980	2.730	2.73/150	7.064	388.132	1573.201		
Y-8	6.370	1.320	2.730	2.73/150	7.064	388.132	2472.401	4985.495	28618.106

実倍率 8.79 倍として算定

### ！ 「偏心率計算」の準耐力壁等の扱いについて

偏心率計算では、耐力壁量に対する必要壁量の割合にかかわらず、存在壁量に含む準耐力壁等は、すべて含めて計算します。

四分割法計算とは、準耐力壁等の扱い条件が異なります。

耐力用壁倍率	準耐力壁等を含めて上限 7.0 倍で計算
実態上の壁倍率	準耐力壁等を含めて計算

※準耐力壁等の算定方法を「算定しない」に設定している場合は、準耐力壁等は計算には含まれません。

### < [耐力用倍率] ・ [実態上の壁倍率] の対応箇所 >

- ・壁量計算 : 「1/4 範囲充足率」・「偏心率」
- ・構造チェック : 「1/4 範囲充足率」・「偏心率」
- ・ハウストラ : 「水平力検定 / 令 46 条関連の計算 / 四分割法確認」  
「水平力検定 / 偏心率の計算」

※準耐力壁等の取り扱いは、すべて共通となります。

※大臣認定を取得した制震ダンパーの N 値計算用の壁倍率は実態上の壁倍率として扱います。

### ※1 木造軸組工法住宅の許容応力度設計(2025年版)① P.65

「実態上の倍率が 7 倍を超える軸組については、四分割法または偏心率の計算においては、当該軸組の倍率を 7 倍及び実態上の倍率の両方を用いていずれも基準を満たすことを確認する必要がある」と記載

## ◆DTX ファイルバージョン 9.18 に対応

室内階段(拡張)、外階段(拡張)に対応しました。  
壁の変換処理に対応しました。

## ◆「2026KMEW・旭トステム、LIXIL」の外壁、壁仕様データの追加

### [2026 KMEW 外壁]

次世代外装パネル レジール、FLAT DESIGN PANEL、ネロック・光セラ、イクセージ・光セラ、セラティール・親水パワーコート、ネロック・親水、イクセージ・親水、フィルテクト N、LAP-WALL、KMEW-はる一番 / 24 点

### [2026 旭トステム外壁]

旭トステム-DanSIDING / 5 点

### [2026 LIXIL 壁]

エコカラットプラス / 3 点

